UNIVERSITY OF YAMANASHI HOSPITAL

はなみずき
（病院だより）

第67号
2015年5月
発　行
山梨大学
医学部附属病院

病院の理念

一人ひとりが満足できる病院

病院の理念の主旨

私たちは、本院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくります。

病院の目標

- 共に考える医療
- 質の高い安全な医療
- 快適な医療環境
- 効率の良い医療
- 良い医療人の育成

病院長就任あいさつ

病院長　藤井　秀樹

このたび、島田前病院長から引き継ぎ病院長を拝命しました。

私は昭和58年の山梨医科大学附属病院開院と同時に医員として赴任し、それから32年間、本学附属病院とともに歩んでまいりました。平成15年に外科学講座第1教室の教授に就任しましたが、その後11年間は教室運営とともに、平成19年から現在まで副病院長（臨床研修担当、病院再整備担当、安全管理担当）といった様々な形で病院運営に関わらせていただきました。

特に病院再整備には平成22年から関わり、施設・環境部、経営企画室（現在の病院経営企画課）をはじめとする事務の方々と頻繁に文部科学省を訪問し、最終的には学部転用という形で21,000㎡を確保することができました。皆様が期待されている新病棟はこの6月末には竣工の予定です。

また、平成21年からは施設マネジメント委員会（旧財務常置委員会）委員として大学運営にも参加させていただき、大学の一組織としての病院の在り方や価値を明確にすることの重要性を感じるとともに、逆にその運営の支障となる病院に対する多くの無理解や誤解が大学内に根強く存在することを知ることもできました。しかし、前病院長の島田先生が学長になられ大学と病院との連携は極めて強いものになると確信しています。

即ち、重要なことは、病院運営は大学運営の鍵となり、病院が大学全体に大きく寄与するという認識を大学全体で共有するということ、そして、そういう認識のもと大学全体として適切な病院運営を計画し実行することです。

さて、病院は今様々な課題を抱えていますが、その本質的かつ一義的な問題は人員不足であろうと考えます。人員不足という問題は高い医療の質の担保、臨床教育の充実など大学附属病院という組織が本来担うべき高いレベルを維持するためには、早急に解決すべき課題であります。人を確保し育てるために先ずなすべきは、医療者のみならず事務系も含めた病院全職員の努力に見合った評価が正しくなされるということではないでしょうか。病院職員の様々な待遇の改善、そして本院で活躍している女性医師、看護師を含めた多くの女性のための環境改善を図るつもりです。

当然そのためには資金が必要ですが、附属病院では、借入金により施設・設備の整備を行っており、償還は附属病院収入を先ず充当しています。そのなかで平成26年度は約14億円で緊急性を伴う機器など限られた機器の整備しか実施できておりません。一方で耐用年数を経過し更新を必要としている医療機器が多数ありますし、さらに平成27年度以降は病院再整備の費用も償還しなければなりません。困難はありますが、本院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」を実現するために、経営基盤の安定化を図りながら、何より職員を大切にすることを最優先に、効率的で安定した病院収入を確保する必要があります。皆様とともに努力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。

病院長の６年間を振り返って

学長　島田　眞路

本年３月31日付けで６年間務めた病院長を退任し、４月１日に学長を拝命、７日には学長としての初公務である入学式を無事終え、ほっとしています。

山梨医科大学にNIHから赴任したのが1986年、1991年まで皮膚科助教授として、1995年３月から本年３月まで20年間教授として務めたことになります。病院では2002年から感染対策委員長、2005年から安全担当副病院長、2009年から病院長を歴任いたしました。思い返してみますと病院長就任早々に起きた２大事件に全力で取り組み解決したことで、病院スタッフのチームワークの大切さを肝に銘じ病院長としての覚悟ができたようです。

先ず、経営面では様々な努力が実り診療報酬が2008年度124億円から、2014年度には165億円と大きく伸びました。また、みなさんとともに日本医療機能評価機構のVersion６一発合格を果たしたのも「病院全体がひとつのチーム」になれた証と考えています。

地域医療支援としては、山梨県との協力のもと本院に山梨県地域医療支援センターが開設されたことがあります。県の支援を仰ぎながら佐藤弥副院長のご尽力で、市川三郷町立病院と社会保険鰍沢病院が合併、新たに峡南医療センターとしてスタートできたことなど思い出深いものがあります。

最も印象的な出来事は、2011年３月11日東日本大震災の際、南三陸町に３月18日から５月13日まで計22班124名の有志による医療支援班を３泊４日で送り続けたことです。私も２回参りました。出発するすべての班を朝６時30分～７時の間に見送り、又、４日毎の帰着した班の報告会もすべて出席することができました。この報告会での次班への引継ぎが功を奏し、現地での救援活動を有効なものとし支援先から高い評価をいただきました。「ひとつのチーム」を実感した日々でありました。

記念すべきこととしては、2013年秋には本院開院30周年を迎え、みなさんのご協力のもと記念式典を開催したことも記しておきたいと思います。

心残りは病院再整備です。任期中に新病棟建設と旧病棟改修を果たしたいと願っていましたが、旧病棟は耐震構造が基準に達せず改修を断念、新々病棟を建設することに決まりました。６月の完成を目前に新病棟は今その勇姿を現していますが、新々病棟建設と外来･中診の改修は藤井病院長に全てお任せしたいと思います。

私が無事６年間務められたのも、藤井副病院長（当時）をはじめすべての医師の先生方、岩下看護部長やGRMなど、すべての看護師、すべてのコメディカルの方々、又、白沢前事務部長、山田事務部長をはじめ、すべての事務の方々の絶大なご支援の賜物と深く感謝しています。長い間本当にありがとうございました。

島田病院長離任式

桜の満開を迎えた３月31日、島田病院長と退職される５名の離任式が挙行されました。

始めに、丸山総務課長から離任される方の紹介と、長年の功労に対し感謝の言葉が述べられました。続いて、多くの職員を前に、病院長から、在任６年間を振り返って、離任の挨拶がありました。その後、退職者お一人お一人からも挨拶をいただきました。式の最後には、総務課職員から花束が贈呈され、盛大な拍手のなか、大勢の出席者に見送られながら病院を後にしました。

左から、乙黒施設管理課係長、弓納持臨床検査技師長、有田看護師長、島田病院長、秋山看護師長、矢澤総務課補佐

副病院長就任にあたって

副病院長（安全管理担当）　平田　修司

４月より、藤井秀樹前安全管理室長（現病院長）の後任として、附属病院の安全管理担当の副院長ならびに安全管理室長を拝命いたしました。

さて、患者さんに安心・安全な医療を提供するためには、医療安全の確保ならびに向上は最優先の課題であり、本院ではこれまでも安全管理室を先頭として職員全員の力をこの課題に注いできました。その結果、本院の医療安全の水準は飛躍的に改善してきましたが、残念ながら極少数ではありますが重大なインシデントが生じているというのが現状です。来年初頭に新病棟の開設が予定されていますが、病棟の移動の際や新病棟という慣れない環境下での業務の開始にあたっては、医療安全上のさまざまな問題が生じるであろうことは容易に想像できることです。したがって、本年度は、とくにこの新病棟開設前に、本院における医療安全の水準をより一層向上させておくことが肝要と考えます。

医療安全の確保には、多職種から構成されるチームとしての力が不可欠であり、本院でも「病院全体が一つのチーム」という概念で体制を築いてきました。今後とも、同職種間ならびに多職種間の連携の緊密化を推進していきたいと考えます。しかしながら、連携のみでチームの力の強化が達成できるわけではなく、チームを構成する一人ひとりの能力の向上が必須であることをご理解ください。

私は、本院の医療安全のさらなる向上をめざして、職員の皆様が高い意識を持ち、また、安全原則に則って業務を遂行できるよう環境整備を進めていきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

副病院長就任にあたって

副病院長（病院再整備・病床管理・臨床研究担当）　木内　博之

４月より、副病院長を拝命いたしました脳神経外科の木内でございます。病院再整備、病床管理、臨床研究を担当させていただくこととなりました。微力ではありますが、病院の発展に向けて精一杯努力する所存ですので、藤井病院長はじめ皆様方のご指導をよろしくお願い申し上げます。

2013年の本紙に、島田病院長3期目の最大のテーマは2013年3月に着工された病院再整備を進めることと書かれています。それから早いもので、2年が経ちますが、先日、新病棟の建物を覆っていたベールが取り払われ、端正な姿を現しました。佐藤弥先生、藤井先生、榎本先生はじめ、前任方々の多大なるご尽力によりこの新病棟建設を柱とする再整備が順調に進んでいることを実感しました。

しかしながら、本院の再整備は、新病棟建設だけではありません。引き続き、東病棟の解体、新々病棟の建設、外来棟をはじめとする既存施設のリニューアルが控えており、まだ道半ばであります。

病院再整備は、これからの30～40年先の長期展望を踏まえて、病院運営を滞りなく行えるインフラを構築することだと思います。今後も本院が大きく発展できるような再整備を完遂できますよう、全力を挙げて取り組んでまいりたいと思っております。

皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

就任のあいさつ

心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科　科長　**中島　博之**

3月1日付けで心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科長を拝命しました中島博之と申します。私は平成元年に京都大学を卒業し、直ちに三菱京都病院という一民間病院で心臓血管外科の修練を開始しました。当時はほとんどの卒業生が大学の医局に入局して研修する時代でしたから異色のスタートを切りました。以来、心臓血管外科学を専門として診療に携わってまいりました。その後、平成7年から10年にかけてフランスに臨床留学し、また平成13年から17年には京都大学病院で臨床と研究に従事しました。その後は再び三菱京都病院に復職して臨床に明け暮れる毎日を過ごし、10年を経てこのたび山梨へ赴任して参りました。このように民間病院での経歴が長く、現在の「患者さんが第1、病院収益が第2」というスタンスが体質として染み込むこととなりました。

さて、当科は心臓、肺、血管および小児の外科治療を専門として診療にあたっております。外科手術が治療の中心ですが、外科医だけでは治療は為し得ません。麻酔科とはもちろん、小児科、循環器･呼吸器内科、放射線科さらには救急部などと密接に連携しながら診療にあたっております。

わが国では他国に類を見ない速度で高齢者が増加しており、当科でも同様です。いまや85歳以上の超高齢者の手術もまれではありません。心臓外科では人工心肺装置を使用する侵襲の大きな手術が多く、超高齢者への手術適応には時に躊躇しますが、全身状態や家族背景などから総合的に判断しています。また手術後も臓器予備能が乏しく合併症を発生しがちです。合併症の予防、発症してからの対応にはリハビリやＮＳＴ、緩和ケア、ＣＬＳ、褥瘡などのチーム医療によるサポートが不可欠です。関係部署をはじめ皆様には今後も大変お世話になりますが、山梨県の医療に少しでも貢献できるよう尽力する所存ですので、何卒ご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

薬剤部長　特任教授　**鈴木　正彦**

４月１日付けで小口前薬剤部長の後をうけ薬剤部長を拝命いたしました。昭和58年４月に山梨医科大学附属病院薬剤部に採用され、副薬剤部長を経て平成24年１月に退職し、加納岩総合病院に副診療部長として在籍した後、３年２カ月ぶりに復帰しました。薬剤部は、処方･注射調剤、院内製剤、ＴＤＭ、麻薬管理、ＤＩ、薬務等の薬剤部内業務に加え、臨床現場からの要望に応えるべく腫瘍センター･手術室･ＩＣＵ･病棟ならびに治験センター等に業務を拡大してきました。新病棟･新々病棟完成時には全ての病棟に薬剤師が常駐し、患者さんの傍らにいる薬の専門家として患者さんへの治療薬の説明、注射薬・内服薬の投与チェック、注射薬施用モニタ、医療スタッフへの情報提供を通じ医療の質向上に貢献したいと考えております。私は、これらの職責を果たすためには多様化する医薬品に対する知識教育とともに、チーム医療の中で患者さんや他の医療従事者と的確なコミュニケーションのとれる心豊かな人材の育成が最も重要と考えております。とはいえ、薬剤師の半数以上が経験年数４年未満と若い職員の多い薬剤部であり、臨床への貢献の点では物足りなさを感じられている方もおられると思います。しかし、現在在籍する彼（彼女）らは、薬剤師の退職・欠員が続き補充もままならない中で業務に奮闘し、疲れてもなお未来を見据え、臨床への意識、向上心を持ち続け、日々研鑽を続けてきています。必ずや数年後には臨床で活躍できる薬剤師に成長すると思っております。私も、全力で薬剤部の環境を整え、薬剤師を育てていく所存ですが、皆様におかれましても薬剤部の現状をご理解いただき、厳しく、また温かいご指導により若い薬剤師を共に育てていただけますようお願いいたします。

お世話になりました

病理部　前臨床検査技師長　弓納持　勉

1983年の開院に合わせ筑波大学より赴任し、国立大学に38年間お世話になりました。赴任当初は、10月の開院に合わせ慣れないデスクワークに追われておりましたが、夕方になると聞こえる蛙の大合唱に癒されたことが懐かしく思われます。今では大学周辺の田畑が住宅地や商業地に変わってしまい、当時を偲ぶのは困難となってしまいました。

山梨大学での32年間は非常に多忙でしたが、今となっては辛さよりも楽しい思い出ばかりとなっております。開院当初は同じ志を持った方が多くおられましたので、日常業務の中で学ぶことが沢山あり、濃厚で充実した日々を送ることができました。その後もこれらの経験をもとに各診療科の先生と難しい症例や稀な症例等を共に悩んでいただき、それらを基に学術活動も積極的に行い、大学病院としての基礎を築くことができました。また、細胞診の結果が治療に大きく反映する婦人科や乳腺･甲状腺に関しては毎週検討会を行い、画像の読み方や治療に直結した高度な知識を学ぶことができ、精度の高い病理診断業務を構築することができました。今後も、より付加価値の高い病理検査を行うために、研修会や学会に参加することはもちろんですが、皆様のご指導ご協力なくしては不可能な部門ですので、よろしくお願い致します。

最後に、山梨大学に赴任し、多くの人と出会い、そして学び、興味が尽きることなく最後まで充実した人生を送ることができました。ご指導を頂きました皆様およびスタッフに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

長い間ありがとうございました

材料部　前看護師長　秋山　栄

3月31日をもって定年退職いたしました。

昭和58年冬の面接試験のとき、田んぼの中に建設されていた病院を目指して、小井川駅から田んぼの中を歩いてきたのを思い出します。それから30年以上の年が過ぎ、その間公私にわたり多くの皆様にお世話になり、深く感謝いたします。

開院当初は外来に配属され、一日の開始は4人のメンバーで窓と水道の開放から始まり、広い外来の廊下の拭き掃除には閉口したものでした。平成20年には材料部に異動となり、島田病院長の下、医療材料比率1％1億円の削減と目標以上の成果を上げることができ、政権が切り替わった平成24年度の補正予算としてついた「手術器械運用管理システム」の導入にあたっても手術部･診療科をはじめ多くの皆様の協力を得て、今日問題なく運用をしています。

新棟開設に伴い自動立体倉庫、垂直回転棚の導入が図られ手術器材管理の新しい側面を迎えており、今後ますますの発展を祈念しております。

長い間、ありがとうございました。

定年退職を迎えて

医療福祉支援センター　前看護師長　有田　明美

この度、県立中央病院から併せて38年間の看護師生活を終えて定年退職を迎えることができました。改めて支えて頂いた皆様に心から感謝いたします。本院においても病棟･外来･手術室師長といろいろの部署を経験させていただきました。手術部に異動した時に「電気メス」の臭いにとても耐えられず、3日で辞めたいと決意してその当時の看護部長の自宅まで直訴に行ったことを思い出します。皆様に支えられて、その後8年半手術室で勤務することができました。

また、50才を過ぎた頃、大病をして「1年半の病気休暇」をいただいた後、職場復帰をすることが出来ました。患者さん･家族、また、沢山の関係者の方々から力強いパワーをもらい、ここまでやってこられたと思っています。それこそ「仕事」が「私の生きるリハビリ」そのものでした。本当にありがとうございました。

今後の山梨大学附属病院の御発展と皆様の御健勝を心から祈っています。

病院各部門代表者

病院長・副病院長

病院長	副病院長					
	財務管理・経営改善・地域医療担当	安全管理担当	労務管理・保険診療・臨床研修担当	病院再整備・病床管理・臨床研究担当	防災担当	看護・患者サービス担当
藤井 秀樹	佐藤 弥	平田 修司	榎本 信幸	木内 博之	松田 兼一	岩下 直美

中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等
検査部	尾崎由基男	井上 克枝 雨宮 憲彦	リハビリテーション部	波呂 浩孝	小尾 伸二	口腔インプラント治療センター	上木耕一郎	
手術部	石山 忠彦		血液浄化療法部	深澤 瑞也		遺伝子疾患診療センター	中根 貴弥	久保田健夫
放射線部	大西　洋	市川 智章 坂本　肇	光学医療診療部	佐藤　公	山口 達也	循環器救急センター	久木山清貴	尾畑 純栄
材料部	松川　隆		総合診療部	佐藤　弥	針井 則一	病院経営管理部	佐藤　弥	柏木 好志
輸血細胞治療部	尾崎由基男	金子　誠	臨床研究連携推進部	岩﨑　甫		栄養管理部	小林 貴子	
救急部	松田 兼一		ＭＥセンター	松川　隆		安全管理部	藤井 秀樹	平田 修司
集中治療部	松田 兼一	森口 武史	医療チームセンター	飯嶋 哲也		薬剤部	鈴木 正彦	河田 圭司 手塚 春樹 寺松　剛
新生児集中治療部	杉田 完爾	星合美奈子	生殖医療センター	笠井　剛				
病理部	加藤 良平	中澤 匡男 石井 喜雄	腫瘍センター	桐戸 敬太	三森　徹	医療福祉支援センター	端　晶彦	
分娩部	平田 修司	笠井　剛	肝疾患センター	坂本　穣	井上 泰輔	臨床教育センター	板倉　淳	佐藤 信隆

看護部

看護部長	副看護部長			
	業務担当	総務担当	教育担当	質保証担当
岩下 直美	望月 恵美	佐藤 あけみ	井上 貴美	萩原 千代子

	看護師長	副看護師長
安全対策（GRM）	村松 陽子	伊藤 雅美
管理師長	古屋 塩美	
情報担当	齊藤 幸美	
医療福祉支援センター	穴水 美和	
感染管理（ICN）	矢崎 正浩	窪川 佳世
教育担当	永田 明子	茶谷 直子
医療チームセンター		金丸 明美 大芝 まゆみ 中嶋 君枝
外来	小野 さつき	宮澤 久美 戸栗 宏子 山中 浩代 磯野 絵美
手術部	小林 ひとみ	杉田 俊江 櫻本 かおり 重森 美樹
材料部	小林 ひとみ	渡邉 理映子

	看護師長	副看護師長		
ICU	岡村 真由美	横内 洋子	牛山 佳菜	山本 智子
NICU	平野 みのり	寺島 由美子		
GCU	杉田 節子	茂手木 智美		
7階東病棟	杉山 千里	金子 春美	神田 藍	
6階東病棟	山口 奈巳	三枝 栄江	青柳 しづか	
5階東病棟	蓮沼 知津子	河西 典子	相川 真弓	細野 英伸
4階東病棟	岩澤 久美	中柄 創和	長田 理沙	清水 美紀
3階東病棟	高野 和美	小泉 夫美子	竹田 礼子	長澤 良美
2階東病棟	大門 恵美	赤池 陽子	小林 典子	
7階西病棟	長田 玉枝	原　克枝	山本 ゆかり	
6階西病棟	島田 昌子	河手 久美	大村 希依	伊藤 由香
5階西病棟	石川 みゆき	辻　稔	鈴木 聖美	青木 真里
4階西病棟	山本 秀美	古川 明美	坂野 雅子	筒井 ひとみ
3階西病棟	三平 まゆみ	藤原 由理香	小林 美幸	
2階西病棟	伏見 ます美	北井 朋美	武田 陽子	
1階西病棟	小澤 和子	牧野 基美	金丸 紀子	内田 純子

事務部

事務部長	課名	課長	課長補佐		課名・室名	課長・室長	課長補佐	
山田　徹	総務課	丸山さとみ	土屋　豊	菊島 弘明	医事課	野中 昭彦	武居　進	望月 眞樹
	管理課	小林　充	岡　智昭		病院経営企画課	高山 俊雄		
	学務課	渡邊 公彦	平山 栄治		医療情報室	今井　桂		

看護部新採用者研修を終えて

副看護部長　井上　貴美

平成27年度看護部は87名の新採用者を迎えました。４月１日の辞令交付式では、赤池大貴さんが代表者として病院長より辞令を交付されました。２日目からは全員真新しい白衣に着替えて、清々しくとても初々しい様子で研修に参加していました。看護部では「交流会」としてセクションの先輩看護師１名が新採用者にセクションの様子や看護師としての生活の工夫など話ができる場を設けています。先輩の話を新採用者はとても生き生きした表情で聴き、セクションで安心して働けると感じた様子でした。

また、「１分間スピーチ」では新採用者全員が自己紹介や自己アピールをしました。私たちの知らないアーティストの名前やフェスという言葉が何度も聞かれ、？マークが飛び交いました。スポーツを趣味にしている人が多く、非常に活発な印象がありました。

そして、今年最大の目玉は最終日の夕方に開催された「懇親会」です。医師･看護師･その他コメディカルが大勢集まり、食事や会話を楽しみました。そして、自己紹介を書いた名刺を相互に交換し親睦を深めました。新採用者はとても楽しそうで、一緒に参加した私たちもとっても嬉しい時間になりました。

新採用者はこれからたくさんの研修を受講し、学んでいきます。山梨大学医学部附属病院の看護師として働いていけるように職員一同で見守っていきたいと思います。

辞令交付式

懇親会の様子

会計検査院実地検査を受検して

管理課長　小林　充

１月21日～23日の３日間、会計検査院による会計実地検査が行われました。

病院に関する検査内容は、病院の経営方針や目標、病院収益･収支改善に向けた取組み、材料費（医薬品、医療材料、医療機器等）や人件費削減への取組み、各種委員会の活動状況、患者数の推移、病床稼働率、医療機器稼働状況、地域医療･地域貢献事業、安全管理、国立大学病院管理会計システム（HOMAS）の活用状況等々、短期間ではありますが、非常に中身の濃い検査となりました。

なお、検査官から『今後は、経営目標を数値化し、職員全員がその目標を認識したうえで病院経営に取り組む』よう講評がありました。

一方、病院以外では、共同利用機器の利用状況、特許出願経費、ＤＮＡ合成製品のプリペイド方式購入契約、外部資金受入れ等について検査を受けました。

その結果、①研究開発の実施により取得した資産の利活用、②共同利用機器の有効活用、③知的財産権取得管理に要する経費削減および知的財産権利活用による利益の確保、④ＤＮＡ合成製品のプリペイド方式による購入契約（前払い）の見直し等について、指導を受けました。

これらを踏まえ、引き続き、経費節減はもとより、不正防止、安全･安心な医療の提供に心掛け、「一人ひとりが満足できる病院」の実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「指定難病・小児慢性特定疾患」について

医事課　医療福祉支援センター　専門員　東条　加代子

平成27年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」及び「児童福祉法の一部を改正する法律」が施行されたことに伴い、対象疾病が拡大され、患者の月額負担額も変わりました。また、支給認定の申請に要する診断書等の記載は、県に申請登録を行い知事の指定を受けた「指定医」のみに限定されました。

対象疾病（難病110疾患、小児700疾患）については、電子カルテの掲示板から一覧が確認できますが、国の施策では今夏ごろに、指定難病を300疾病に拡充する予定です。

新規申請用「臨床個人票」及び「小児慢性疾病意見書」については、Medi-papyrusにアップしました。更新用「臨床個人票」は、厚生労働省から3月末決定となりましたので、現在業者に早急な対応を依頼しております。

「指定医」の申請手順は、医療シェアの院内共通内にフォルダを作成しました。随時申請できますので、必要書類を医事課へ提出願います。6月頃が更新の時期となりますので、その前に申請をお勧めします。

新たな制度の内容に、患者も医療者も混乱しましたが、まだ第一段階です。難病指定医療機関として、対象となる患者さんに不利益とならないために、今後300に拡充される疾患の院内職員と患者への周知、臨床個人票の様式の取り込み、また、対象疾患の該当かチェックできる方法やシステムの構築等、これからまだ多々課題が出てくると考えます。

院内職員、特に先生方にはお手数をおかけしておりますが、ぜひご意見等いただきながら、対応していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いします。

（参考サイト）

難病情報センターHP
http://www.nanbyou.or.jp/

小児慢性特定疾病情報センターHP
http://www.shouman.jp/

病院再整備事業（新病棟建設）の進捗状況について

病院経営企画課　再整備企画グループリーダー　佐藤　康樹

平成25年3月より工事が行われている新病棟ですが、皆様の多大なご協力もあり、今年6月末の完成を迎える運びとなりました。

今年2月には今まで建物を覆っていた青いシートが撤去され、新病棟の外壁や病院サインを確認することができるようになりました。また、3月には既存施設（東病棟・中央診療棟）と新病棟を結ぶ接続廊下の設置に着手し、4月からは1階車寄せエリア（ピロティー）に繋がる斜路（スロープ）建設に取り掛かるなど、新病棟の外構工事も並行して行われています。

一方、新病棟の内部に目を向けますと、1階栄養管理部厨房エリアでは塗床工事が、2階手術部のMRI手術室ではシールド工事が行われるなど、各部門において特徴的な工事が実施されています。併せて4階以上の病棟エリアでは、壁や天井のクロス貼りや床材の設置などの内装工事や照明器具やユニット式シャワーの据付工事が行われており、新しい病室の完成が近づいてきています。

新病棟の完成・引き渡し後は、新病棟移転に向け、医療機器等の搬入据付や業務シミュレーション及び新病棟での運用検討などを行い、新病棟稼働に向けた準備を行います。

なお、病院再整備事業は新病棟完成後も、既存施設の改修工事などを計画しており、事業期間中は、工事による騒音や振動など、ご迷惑をお掛けする場合があるかと思いますが、引き続きご協力の程、よろしくお願い致します。

※新病棟の詳しい工事進捗状況は、病院再整備事業ホームページで随時紹介しています。

http://www.hosp-saiseibi.yamanashi.ac.jp/

建物工事
【平成27年4月23日撮影】

この印刷物は環境にやさしいVOC（揮発性有機化合物）成分フリーの植物油型インキを使用して印刷しました。